

1月27日

2020年
(令和2年)

月曜日

第19490号(日刊)

土、日曜・祝日は休刊

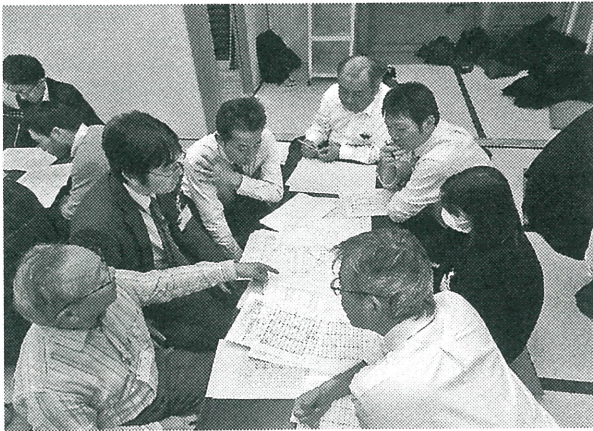
鉄鋼新聞

Japan Metal Daily

JSCA東北と全構協青年部会東北 郡山で意見交換会

トラス梁の設計施工で技術交流

日本建築構造技術者協会東北支部（JSCA東北、支部長・平山浩史大成建設東北支店設計部長）と全国鉄構工業協会青年部会東北ブロック（会長・佐藤文宣SINMEI社長）はこのほど、第6回「鉄骨建物の設計施工



設計者と製作者が知恵を出し合い図面を作成

問題意見交換会」を福島県郡山市の郡山ビッグアイで開催した。過去5回は仙台市内で開催してきたが、今年度から各県持ち回りで実施することになった。当日はJSCA東北から29人、全構協青年部会東北から23人が出席。冒頭、佐藤会長

は「25年前の阪神・淡路大震災以降、法律改正によって耐震性向上など建築物に求められるレベルが向上している。設計する側と製作する側が意見交流することで良質な建築物が増えることは重要。今日は設計者のクオリティと製作者のプライドを融合させ、素晴らしい成果を出したい」と挨拶した。平山支部長は構造設計とAIの関係性に触れながら、「AIの発達により、トラス構造でいえばスパンや荷重など必要なデータと条件がそろえば図面ができればいい時代になった。しかし、細部には技術者のひらめきが求められる。今日は設計者と製作技術者のひらめきを大切に議論してほしい」と述べた。

この後、7つの混成グループに分かれ、今回のテーマ『トラス梁を製作者と一緒に考える』に取り組み、デザインやコスト、トラス梁と柱取合い部分に留意しながら屋根伏図を作成。その後、成果発表を通して活発に意見交換した。